

これが現場社員の声だ！

社員・家族の幸福は言葉だけでいいのか!?

会社は「社員家族の幸福と社員のチャレンジは両輪」と言っているが、実際にやっていることはチャレンジのみ。社員家族の幸福は言葉だけで微塵も感じられない営利最優先の施策のオンパレード。
これでは、「会社が大変な時だから俺らも何とかしよう」とはならない。儲かっている時にも出さなくて、ピンチになっても社員に求め全く還元しない。こんなやり方されて、何を頑張れば良いのか全く理解出来ません。

他にやりたい事があると言って退職していく優秀な若者が増えているのも当然だと思う。会社が社員を大事にしなければ、社員が会社の為に頑張ろうなんて思うわけないじゃん！

経営側がよく言う「先行き不透明」に対して、一歩二歩切り込んだ議論だと感じました。
「投資家・銀行などに、信用たる企業であることを示すために、先行きを見据えて明らかにしているではないか」「そこに向かうためには、社員のモチベーションを上げる投資が必要だ！」「衣食住育介が安定してこそ、レベルアップに邁進できるのだ！」と。
そして、経営側から「支払う体力はある」「安定支給という考え方に変わりはない」と引き出してくれました。
この「声が届いている」と実感できることが、労働組合に加入している意義、魅力のひとつだと思います。

「声が届いている」と実感できることが
労働組合に加入している意義・魅力のひとつだと思う。

